

第44回北海道高等学校少林寺拳法大会

申し合わせ事項

1. 競技方法・競技規定

(1) 団体演武について

- ア 選手は8名まで登録ができ、そのうち6名が演武を行うこととする。
- イ 選手の変更は、登録されている者の範囲とし、変更が生じた場合は、その都度「出場選手取消・変更届」を速やかに提出しなければならない。
なお、指定用紙による変更届の提出がない場合は、変更を認めない。
- ウ 演武構成は6構成とし、1・6構成については、次に規定する単独演武基本法形よりそれぞれ1技選択して行い、2～5構成については、相対演武を行うものとする。

天地拳第一系～六系、義和拳第一・二系、龍王拳第一・三系
龍の形（逆小手）、紅卍拳、白蓮拳第一系

- エ 演武を行う者の最高武階の最終科目内の技を使用することができる。
なお、出場選手の変更により最高武階に変更が生じた場合は、使用できる技の制限も変わるため、演武の構成に注意すること。
- オ 上記ウに規定する単独演武基本法形を行うにあたっては、少林寺拳法競技規則「第4章第7条取扱細則2（5）」に従い、開始時の構えから残心時の構えまでを定められた通りに行われなければならない。（※）
但し、攻防後に全転換・半転換を伴う「天地拳第三～六系、義和拳第一・二系、紅卍拳、白蓮拳第一系」については、全転換・半転換部分を他の体捌き、足捌き、運歩に置き換えることを可とし、その後の構えは不問とする。

※技に取り掛かる前の払いを行うことや、定められた構えとは別の構えから払いや運歩等を行った後に定められた構えとなることも認めない。

(2) 組演武について

- ア 組演武は2人での相対演武とし、「三人掛け」は認めない。
- イ 選手の変更は認めない。
- ウ 競技は、予選競技Ⅰ（自由演武）・予選競技Ⅱ（規定演武）、決勝競技を行い、予選競技Ⅰと予選競技Ⅱの合計点により決勝進出組を決定する。
- エ 予選競技Ⅱ（規定演武）の演武内容については、別紙「予選競技Ⅱについて」に示す通りとする。
- オ 予選競技Ⅱ（規定演武）については、次の規定を設ける。
 - a 規定科目以外の技を行った場合は、総合点より10点減点する。
 - b 規定科目を行う順序・攻守の順序が違った場合は、総合点より10点減点する。
 - c 指定外の構え・布陣等で技を開始した場合は、総合点より10点の減点を行う。但し、各科目とも、攻者・守者の構えについて、左右前の限定はしない。
 - d 連反攻において、別紙「予選競技Ⅱについて」に規定する禁止（不可）事項を行った場合は、失格とする。

e 演武時間の制限は設けない。

(3) 単独演武について

ア 選手の変更は認めない。

イ 少林寺拳法競技規則「第4章第7条取扱細則2(1)①」の「武階に相当する修得科目及び基本諸法、基本動作」には「独鈷拳、如意伝、金剛伝(錫杖、半棒)」は含まれない。これらを行った場合は、不正確な動作として技術度及び該当する表現度にて評価する。

2. 選手の服装・身嗜み・頭髪等

選手の服装・身嗜み・頭髪については、少林寺拳法競技規則「第3章第5条細則」(※)及び大会規則「第4章第15条」に記載の通りとするが、特に次の事項に留意する。

(1) 服装について

ア 道衣の袖・裾の長さに注意し、極端に太いズボン等、明らかに体格に合っていないものは着用しない。

イ 帯の先端が膝下にまでなるような、極端に長い帯は着用しない。

ウ ゼッケンは、道衣背部の上部縫い目にゼッケンの上辺が沿う状態で、上下左右の辺すべてを縫い付ける。

※【参考】少林寺拳法競技規則「第3章第5条細則服装規定」(抜粋)

①道衣・帯は少林寺拳法公認のものとし、体格に応じたものを着用する。

清潔感に留意し、汚れがひどい道衣は着用しない。

②袖章は規定通りのものを着用すること。(役職、資格に応じたもの)

③道衣の後襟、前襟下方、ズボン前上方に必ず名前を記入すること。

原則として、黒色で名前のみ記す。卍等の刺繍等はしない。

④道衣の袖をまくりあげないこと。

⑤上着の袖は「手首と肘の中間」、ズボンの裾は「足首と膝の中間に」位置する。

〔一般(中学生以上)〕

・袖の位置は、手首の関節から上に5cm以上、肘から下に10cm以上とする。

・ズボンの裾はくるぶしから上に10cm以上、膝から下に15cm以上、ズボンの幅は体格に応じたものとする。

※上記の数値については、直立で手を真っ直ぐ下ろした状態でそれぞれの関節中央部から計測した場合とする。

⑥中学生以上の男性拳士は原則として道衣の下にシャツを着用しない。女性、少年部拳士が道衣の下にシャツを着用する場合は、色は白色(※ワンポイント入り可)とし、見苦しくないようにすること。

⑦帯は規定通りのもの(資格に応じたもの)を着用し、表面がすりきれて色がはっきりしないもの、あるいは見苦しいものや傷んだものは着用しない。

①⑤⑥の項目についての違反は直ちに服装規定違反とみなす。

他の項目についての違反が甚だしい場合は服装規定違反とみなす。

服装規定違反が認められる競技者については、出場を認めない(受賞対象外とする。)

(2) 頭髪について

ア 安全性の観点からも極端な長髪は避け、端正な髪形(髪が目に入らない、後髪がゼッケンにかからない)とする。

- イ 頭髪の加工（染髪・パーマ等）は一切認めない。
 - ウ 長髪の選手で髪留めの使用が必要な場合は、金属・プラスチック製髪留め具やリボンなどの使用は禁止とし、黒又は紺色のゴム製髪留め具を後髪のみで使用する。
 - エ 組演武（予選競技Ⅱ）に出場する選手においては、ヘッドガードが正しく着用できるよう、髪留めの位置・まとめ方等に十分注意する。（別紙「予選競技Ⅱについて」を参照のこと。）
- （３）装着・装具品等、その他
- ア 競技出場中の眼鏡・コンタクトレンズ（ハードタイプ）の使用は禁止する。
 - イ 装飾品を身に着けることは禁止する。
 - ウ 原則として、サポーター等の装具の使用は不可とする。
 - エ 組演武（予選競技Ⅱ）で装着する防具については、別紙「予選競技Ⅱについて」に記載の通りとする。

３．競技出場前後の立ち居振る舞い

- （１）競技出場前は、指定次待機場所で、ウォーミングアップをして待機する。また、組演武（予選競技Ⅱ）で使用する防具については、防具着脱コーナーにおいて着脱する。
なお、ウォーミングアップは、競技及び審査の妨害にならない程度での練習も可とする。但し、気合いを出したり、投げを行ったりはしないこと。
- （２）前の競技者が退場した後に、主審席対面（コート入場位置）へ移動し、選手名又は学校名を呼ばれたら返事をし、合掌礼をしてからコートへ入場する。
なお、返事は力むことなく、凜とした姿勢で普通に「はい」とすること。（団体演武については、代表者１名が返事をする。）
- （３）コートへの入場前には、腕を伸ばして互いの間合いを確認するなどの行為はしない。なお、組演武、団体演武においては、コート入場位置に一直線横隊で整列すること。
- （４）コートへの入退場は、凜とした姿勢で歩いて行い、ポーズをとる・掛け足で入退場する・歩調をとる等のパフォーマンス的な行為はしない。
- （５）コート入場後は、組演武は相対礼を行って、直ちに演武を行う。単独演武・団体演武は、正面礼を行って、直ちに演武を行う。
- （６）組演武は、相対礼により終了とし、単独演武・団体演武は正面礼により終了とする。演武終了後は、直ちにコート外（主審席対面）に出て、正面に礼をして、控場所に戻る。

４．開会式・閉会式

本大会に参加する選手は、全日程参加し、道衣を着用したうえで、開会式・閉会式に参加することを原則とする。

５．決勝進出者（組・チーム）の発表・演武順

決勝進出者の発表については、会場にて掲示により発表する。

なお、演武順については「全国高等学校少林寺拳法大会出場組合せ規定」に準じ、すべての競技（予選・決勝）がＰＣによる乱数表で決定される。但し、組演武の予選競技Ⅱは、予選競技Ⅰの逆順とする。

６．その他

- (1) 本大会競技中の応援、声援については可とする。むしろ積極的に秩序ある応援をしあい、大会を盛り上げるよう努めること。
- (2) 各校の部旗等の掲示は可とする。
但し、実行委員会側が認める規定に基づいた範囲で掲示すること。
- (3) 基本的には従来通り（気合あり、マスクなしでの演武、コートサイドでのマスク着用は個人の判断、マスクを着用する場合はビニール袋の持参）とするが、令和7年度全国高等学校総合体育大会事故防止・安全対策の指針により、感染症対策を含めて制限をかける場合もある。